太宰府市観光推進基本計画

追加変更

（別冊）

令和３年４月

太宰府市

～観光推進基本計画の追加変更にあたって～

太宰府市の観光のかねてよりの課題でありました通過型、低経済効果型から脱却し中長期滞在型観光を実現すべく、本市にとって初めてとなります太宰府市観光推進基本計画～大太宰府観光への挑戦～を策定してからはや２年が経過いたしました。

この計画に基づき、その後本市の町並みにマッチした古民家を改修した宿泊飲食施設「HOTEL CULTIA 太宰府」が待望のオープンをし、滞在型観光コースを商品化したふるさと納税を発表するなど、着実に計画を実行してまいりました。

一方、策定直後に新元号「令和」が発表され、本市が「令和発祥の都」として全国から改めて脚光を浴びることとなり、また、予期せぬ新型コロナウイルスの脅威が全世界を襲うなど、本市の観光において多大なる環境の変化が生じました。

このような状況に鑑み、この度「太宰府市観光推進基本計画」の追加変更を行うことといたしました。一刻も早くコロナ禍から解き放たれ、名実ともに「令和発祥の都」として本市が飛躍しますことを切に祈念し、巻頭の言葉といたします。

令和３年４月

太宰府市長
楠田大蔵

「太宰府市観光推進基本計画～大太宰府観光への挑戦～」の追加変更について

太宰府市観光推進基本計画策定委員会　副会長
竹川克幸（日本経済大学経済学科　教授）

（１）太宰府市観光推進基本計画の現状

「太宰府市観光推進基本計画～大太宰府観光の挑戦～」は、日本有数の観光地である太宰府の魅力をさらに高め、地域の観光資源や人材ネットワークを活用し、観光消費を促進して、観光による持続可能な地域活性化や観光まちづくりを図るため、「住む人も訪れる人も共に喜びをわかちあえるまちづくりを目指し、今後の太宰府市の観光振興についての基本的な考え方、目標を示し、また、その具体的な施策を示す」という方針のもと 2019 年（平成 31 年）３月に策定されました。

現行の計画では、

・太宰府市内の豊富な自然景観や歴史文化資源
（太宰府天満宮や大宰府政庁跡、観世音寺・戒壇院、大野城跡、水城跡など日本遺産、九州国立博物館、四王寺山や宝満山）、
福岡市中心部・都市圏に近接するよい立地の強み【Ｓ】、

・宿泊施設の脆弱さ、滞在時間の短さ、門前町一極集中による「太宰府」ブランドの希薄化の弱み【W】、

・インバウンド需要、コト消費、女子旅、アクティブシニアの機会【O】、

・九州地域内の自治体間競争の激化、少子高齢化の進展の脅威【Ｔ】、

の【ＳＷＯＴ】分析のもと、

・「アジア圏の外国人観光客」中心の立寄り型から「欧米豪」・「滞在型」へ、

・「団体・ツアー旅行」から「シニア層」や「女子旅」などの個人旅行へ

の観光集約、主要ターゲット層の拡大が図られ、

① 文化の継承と活用、
② アイデンティティの醸成と発信、
③ 人との交流による都市の多様性や社会包摂の発揮、
④ 観光まちづくりによる地域経済循環と都市基盤の拡充

の効果が期待されました。

また、

「１　宿泊滞在促進戦略―太宰府で憩う－」

① 門前町リノベーションプロジェクト（ホテルカルティア太宰府など古民家リノベーション）
② 西鉄太宰府駅周辺の再整備、③ 宿泊施設誘致事業、
④ 宿泊推進プロモーション事業、⑤ 太宰府品質構築事業、

「２　コト消費促進戦略―太宰府を味わう－」

① 門前町リノベーション等によるナイトエコノミーの受け皿づくり、

② 歴史・自然を感じられる体験メニューの提供、③ 太宰府グルメの開発、

④ 太宰府特産品の開発・販促など、

「３　回遊促進戦略―太宰府をめぐる―」

① 太宰府天満宮～観世音寺～大宰府政庁跡～水城跡までの回遊ルートの整備、

② 史跡地における民間投資誘導、③ 市内駐車場の分散化、

④ 市内二次交通（サイクルシェア）の導入、

⑤ モニターツアー等によるプロモーション、⑥ 市民参加型まち歩きイベントの開催、

「４　基本計画実行戦略―太宰府をつなぐ・結ぶ―」

① 観光ビジネススタートアップ支援事業、② 市民おもてなし人財育成事業、

③ 太宰府市観光戦略推進事業体の組成、④ 官民協創プラットフォームの構築、

⑤ 観光情報基盤の拡充、⑥ 市内大学との連携

の４つの観光戦略を中心に、2019 年度から 2023 年度までの５年間の計画や今後の事業・取組を PDCA サイクルで検証し、

① 宿泊してまち全体を楽しく散策できる、

② 地域資源を活用した太宰府の食や体験を楽しむことができる、

③ 観光分野で市民が参画・活躍している

④ 官民連携・周辺地域との連携を進めている

などの将来像が示されました。

2019 年度（令和元年度）は、新元号「令和」ゆかりの地として太宰府市が注目された影響もあり、大宰府政庁跡や大宰府展示館、坂本八幡宮周辺への観光客が増加したのに加え、門前町の古民家をリノベーションしたホテルカルティア太宰府オープン(2019.10)や、西日本鉄道株式会社など民間企業と太宰府観光の課題を整理する「太宰府コンテンツ会議」の開催、九州国立博物館の夜間鑑賞・見学や太宰府天満宮の夜間参拝ＰＲ、ビジット・ジャパン事業（VJ）プロモーションにて米国を対象に九州 10 都市合同での観光ＰＲを実施しました。また、有限会社チョコレートショップと連携して「梅チョコ」を開発するなど令和の象徴・梅を活用した特産品開発も行いました。さらに、筑紫女学園大学による「筑女めざめプロジェクト」において太宰府観光の研究発表や古都の光のアンケート調査、日本経済大学「太宰府市地域貢献プログラム」による太宰府天満宮参道や西鉄太宰府駅周辺の観光調査（外国人観光客の国籍アンケート調査）や観光ゴミの調査分析、清掃活動などの事業を開催しました。

（２）社会情勢や環境の変化と今後の展望

2019 年（平成 31 年）4 月 1 日に発表され、2019 年（令和元年）　5 月 1 日から始まった新時代「令和」は、日本の古典、奈良時代に編纂された和歌集「万葉集」の中にも出てくる大宰帥・大伴旅人邸で開催された「梅花の宴」の際に詠まれた序文の一節「初春

令月・気淑風和」が典拠で、太宰府が発祥の地であり、ゆかりの地でもある大宰府政庁跡や大宰府展示館、坂本八幡宮周辺への観光客が増加したのに加え、太宰府観光にも大きな影響を与えました。

また、第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定や九州観光促進コンソーシアムの設立、Society 5.0・SDGs への対応など時代の潮流や太宰府市政における観光行政や事業計画の進展もあります。太宰府市と西日本鉄道株式会社や九州電力株式会社など民間企業の包括的な連携協定の締結の動きもあり、西日本鉄道株式会社とは、「西鉄太宰府駅」、「西鉄五条駅」、「令和の里　西鉄都府楼前駅」など駅を拠点にした太宰府の観光まちづくりや観光振興、九州電力株式会社とは九州観光コンソーシアムの活動の点で新しい事業展開が期待できます。

さらに、日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアの交流拠点」広域型（シリアル型）認定（2020 年 6 月）、古代の外国の使節を迎えた史跡で、特別史跡大宰府跡（客館跡）にも追加された「客館跡史跡広場」の整備（2020 年 3 月）、大宰府史跡指定 100 周年記念事業（2021 年 3 月）、マンガ・アニメ「鬼滅の刃」ブームによる新しい観光の聖地「竈門神社」による聖地観光（コンテンツツーリズム）、ブラタモリなど TV 番組の影響による近隣観光やまち旅など新しい観光の潮流も起きています。

しかし、2020 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、インバウンド観光を中心に、観光客は激減し、国内の観光産業含め、太宰府市の地域観光、九州の観光業界も大打撃を受けました。また、「古都の光」など観光イベントもほぼ中止になりました。

ただ、この危機的状況をチャンスにとらえ、防疫都市太宰府の歴史や文化、疫病退散の信仰を活かしたマイクロツーリズム「コロナ滅観光ルートによる観光ツアー」の企画（2020.8）、九州電力の reQreate プロジェクトによる太宰府オンラインツアーのモニター実施（2021.2）など YouTube による動画配信、VR や AR、ICT・SNS を活用した観光情報配信も加速しました。また、観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業の一環の「太宰府トキタビプロジェクト」による、「太宰府トキタビ大学」や「客館跡の大型プロジェクションマッピング」、「シティループバスによる観光地巡り」などの観光誘客事業（2021.1～2）、「梅サイダー」や「ポテトチップス」など福岡農業高校の梅研究班による商品開発や梅の新品種（紅梅の露茜）の植樹、「令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクト」による太宰府観光の魅力、価値創造の動きもあります。

今後、これらの太宰府観光をとりまく社会情勢や環境の変化、新しい観光の潮流やニーズを受けて、「遠の朝廷」「筑紫万葉の地」「天下之一都会」「西都」など九州の政治経済、軍事・外交の中心であった「古都大宰府」、交通・交流の要衝や文教の聖地「太宰府」の自然・風土や歴史・文化、地勢を踏まえ、「大太宰府」的な観点から、「太宰府市観光推進基本計画～大太宰府観光の挑戦～」の追加変更を行うこととしました。

（３）「太宰府市観光推進基本計画」の新しいビジョンと「太宰府観光」の未来

令和発祥の都　太宰府からつながる「大太宰府観光」　梅花の五縁（ご縁）

① 「令和発祥の都」太宰府の誕生（2019.4）

・筑紫万葉の地大宰府　・万葉集、大伴旅人　・坂本八幡宮　・梅花の宴　・令和御膳

② 防疫都市・太宰府の新型コロナウイルス感染症への観光対応（2020.1）

・「新しい生活様式」・リモート観光や VR、ICT 観光　・コロナ滅事業と観光ルート

・マイクロツーリズムや修学旅行の誘致　・ニューノーマルな安心・安全な観光へ

③ 第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定（2020.3）

・多様な人材の活躍推進　・Society 5.0・SDGs への対応　・観光人材の育成

④ 日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアの交流拠点　」広域型（シリアル型）認定（2020.6）

・大宰府史跡指定 100 周年　・「大太宰府」観光　・周辺地域や太宰府ゆかりの地との地域連携（筑紫野市・大野城市・宇美町・那珂川市・佐賀県基山町）

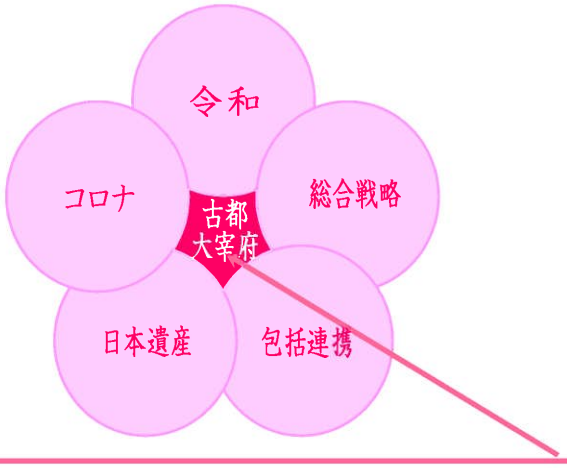
⑤ 九州観光促進コンソーシアムの設立（2020.7）

西日本鉄道株式会社や九州電力株式会社との包括連携協定（2020.10～11）

・九州本来の魅力を発信　・観光 DX・DMO 推進の一環　・太宰府観光組織の強化

・福岡県南や熊本県との広域連携　・新しい観光コンテンツや魅力の開発

（図）「梅花の五縁」のイメージ



◎ 梅の実・核（天神様・プラムカルコア国の光を観る・菅公の聖地太宰府は観光の聖地）

九州観光の聖地　千年の古都　まほろば太宰府から学ぶ「温故知新」の旅

コンテンツツーリズム・ニューツーリズム　VFR 観光※　観光コンベンション機能強化

遠の朝廷、筑紫万葉の地、令和発祥の都、日本遺産の歴史・文化資源

学問の聖地　天神様菅原道真公　太宰府天満宮、「鬼滅の刃」の聖地　竈門神社

岩屋城の戦いと戦国武将・高橋紹運、坂本龍馬・西郷隆盛ら幕末の志士の聖地、

学びの旅＝ラーニングツーリズム、中学生・高校生・大学生などの研修・合宿

※：VFR（Visiting friends and relatives）。家族や親族、友人、知人の訪問による観光。

（４）　具体的な事業計画及び提言（案）

☆「大太宰府観光」「令和・梅花のご縁」観光プロジェクト ※梅の花言葉は不屈の精神

令和・「気淑風和」の聖地　自然・風土　ビューティフルハーモニーで日常を再認識

人のつながりや地域の魅力太宰府とご縁を結んで何度も訪れたい持続的な観光地経営

太宰府とご縁のある人をつなぐ・実を結ぶ観光＝VFR 観光　関係人口・交流人口の拡大

① 太宰府　コロナ滅観光ルート　コロナ滅観光ツアー実施

「コロナ滅かまど神社ルート」「コロナ滅観音巡礼ルート」

② 日本遺産（広域型）の周遊観光ツアー　※万葉ゆかりの地や姉妹都市との連携観光も

③ 太宰府市　歴史の散歩道のサイクルツーリズムや健康ウォーキング、近隣観光の拡充

写真撮影　絵画　書道　華道　和歌　俳句　文化・趣味の融合　感性と感動発見　心旅

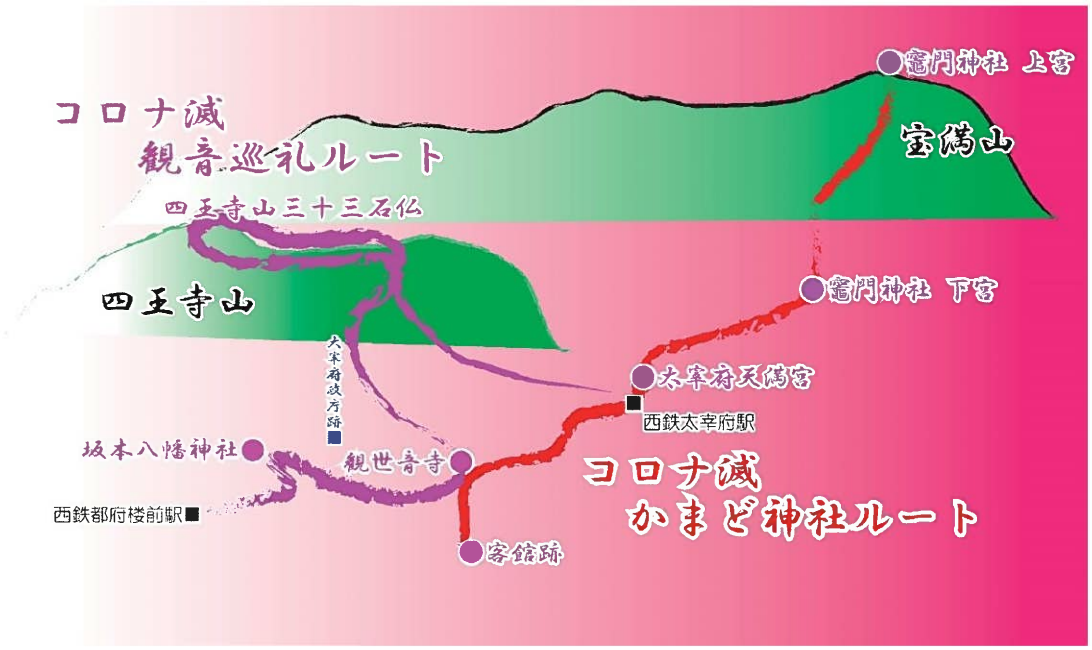
太宰府の自然・風土　風景景観の再発見の旅　養生や保養　癒し　自己再生できる場所

④ 史跡・文化財の観光活用　ユニークベニューの推進　客館跡史跡広場の活用など

古民家や老舗店舗、庭園　空きスペースなど歴史空間をおもてなし空間に活用

⑤ 観光コンベンション・観光動機（誘客イベントや観光体験）強化　観光の原点回帰

（参考）コロナ滅観光ルート



☆ 温故知新の旅

梅花の宴（大宰府万葉会）、さいふまいり、太宰府書画会などの再現

古代食や歴史飯、太宰府産の食材や菓子、土産品を活かした太宰府の食の魅力の再発見

時代衣装体験や地域の芸能文化と観光のコラボ　太宰府まほろば衆や大宰府万葉会

５大学を中心に学会・研究会の開催、太宰府視察旅行・研修旅行、研修合宿の誘致

☆ **太宰府観光人材・人脈の組織・育成で持続可能な観光地経営**　観光の未来は人づくり

１、太宰府観光アドバイザーや観光大使・特派員「チーム旅人」や「志士太宰府」の組織
＝観光情報発信や誘客強化、幕末の志士のように全国遊歴し太宰府をPRする人材育成

２、太宰府ブランド創造協議会・太宰府観光協会の組織強化
＝　太宰府市内５大学・高校など学生を中心に「青年部」など新部会の提案

３、太宰府観光応援団や太宰府ファンクラブなど　太宰府ゆかりの関係人脈を活かす

４、太宰府観光ガイドの連携＝史跡解説員、太宰府天満宮解説員、歩かんね太宰府など
＝太宰府館、大宰府展示館、太宰府市文化ふれあい館、大宰府市中央公民館（プラムカルコア）、市民体育館などの教育文化・社会教育施設の観光交流拠点活用、
※「古都太宰府文庫（研修資料室）」「筑紫万葉文庫（記念館）」など研修資料室の整備

５、観光人材を育成する教育・研修プログラムの開発、大学・研究機関との連携
＝「古都太宰府・歴史文化観光学」、「古都太宰府観光プログラム　～時の旅人～」など

（５）参考文献・資料

『大宰府市史』太宰府市　※『「古都太宰府」の展開』通史編別編（2004年）
『わがまち散策　太宰府への招待１・２』　太宰府市（1990年）
森弘子『太宰府発見』海鳥社（2003年）
森弘子・古都大宰府保存協会『太宰府紀行』海鳥社（2011年）
森弘子『さいふまいり』海鳥社（2017年）
森弘子『太宰府と万葉の歌』海鳥社（2020年）
前野ririえ『麗し太宰府』書肆侃侃房（2015年）
西高辻信宏他編『大学的福岡・太宰府ガイド～こだわりの歩き方』昭和堂（2014 年）
『日本遺産　時をつなぐ歴史旅』東京法令出版（2016年）
酒井咲帆『太宰府自慢』太宰府市観光駐車場協会
『都府楼５２号～特集大宰府史跡指定１００年～』
公益財団法人古都大宰府保存協会（2021年）
『第108回日本観光学会　太宰府全国大会　研究発表要旨集』
日本観光学会九州・沖縄支部（2015年）
竹川克幸「令和ゆかり聖地・九州・太宰府の歴史文化観光
～人物像・記念碑・記念館めぐりなど「記念観光」を中心に～」
日本観光学会九州・沖縄支部大会研究発表資料（2019年）
竹川克幸「太宰府市観光推進基本計画と地域連携観光 ～令和の聖地・古都太宰府の大太宰府観光への挑戦～」日本観光学会九州・沖縄支部大会研究発表資料（2020年）

別　紙

太宰府市観光推進基本計画　実施状況の評価と当面の対応について（2021 年（令和 3 年）4 月）

【現行の計画】

目　的	住む人も訪れる人も共に喜びをわかちあえるまちづくりを目指し、今後の太宰府市の観光振興についての基本的な考え方、目標を示し、また、その具体的な施策を示す。
効　果	〈1〉文化の継承と活用 〈2〉アイデンティティの醸成と発信 〈3〉人との交流による都市の多様性や社会包摂の発揮 〈4〉観光まちづくりによる地域経済循環と都市基盤の拡充

【S】強み：歴史文化資源（太宰府天満宮、九州国立博物館）、よい立地（福岡市中心部から近い）
【W】弱み：宿泊施設脆弱、滞在時間短い、門前町一極集中による「太宰府」ブランドの希薄化
【O】機会：インバウンド需要、コト消費、女子旅、アクティブシニア
【T】脅威：九州地域内の自治体間競争の激化、少子高齢化の進展

主要ターゲット層	観光集約ターゲット層の拡大 ・アジア・立寄り型→「欧米豪」・「滞在型」 ・団体 → 個人（「ｼﾆｱ」「女子旅」）
将来像	〈1〉宿泊してまち全体を楽しく散策できる 〈2〉地域資源を活用した太宰府の食や体験を楽しむことができる 〈3〉観光分野で市民が参画・活躍している 〈4〉官民連携・周辺地域との連携を進めている

【環境の変化】

５つの変化 “梅花の五縁”	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生（2019.4）　・大宰府　・梅花の宴　・坂本八幡宮　・旅人　・令和御膳 [2] 新型コロナウイルスへの対応（2020.1）　・「新しい生活様式」　・リモート観光　・コロナ滅事業 [3] 第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定（2020.3）　・多様な人材の活躍推進　・Society 5.0・SDGs への対応	[4] 日本遺産「西の都」広域型認定（2020.6）　・「大太宰府」観光　・周辺地域との連携 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立（2020.7）　・九州本来の魅力を発信　・ＤＸ推進の一環

	観光推進基本計画（Ｐ） 2019～2023 年度 計画	実績（Ｄ） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（Ｃ・Ａ）		当面の対応（Ｐ） 2021 年度～	備　考
(1) 宿泊滞在促進戦略	【課　題】 ・立寄り・通過型の来訪者が多い ・観光産業が物販中心 ・宿泊施設等の集積が不十分 ・「宿泊できる場所」と認知されていない 【取組み】 ①門前町リノベーションプロジェクト ②西鉄太宰府駅周辺の再整備 ③宿泊施設誘致事業 ④宿泊推進プロモーション事業 ⑤太宰府品質構築事業 【成果目標】 ・宿泊滞在者数の増加 ・宿泊地としてのブランド化等	・ホテルカルティア太宰府オープン（2019.10 古香庵、2021.3 好古亭・梅花：①・③） ・西鉄グループなどと太宰府観光の課題を整理していくべく「太宰府コンテンツ会議」を開催（2019 年度：1 回、2020 年度：0 回：①・②・⑤）。	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・安心創出策の必要性 ・2019 年度は「令和」効果で観光客が増加したが、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で激減	C	・西鉄グループの協力により、宿泊施設が増加している（①～⑤）。 ・市は新型コロナウイルス感染拡大の影響により宿泊施設の誘致・プロモーション活動を控えている（③・④）。 ・新型コロナウイルス収束後を見据えた具体的な再整備計画の策定や事業化の検討が必要（②～⑤）。	・古民家ホテルを開業予定。（2021 年：1 棟予定） ・西鉄グループとの連携を密に図り、物件等の情報を共有し、今後の展開等に活かす。 ・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、計画策定や事業化の検討に着手。	・西鉄太宰府駅のリニューアル（2018.12）
(2) コト消費促進戦略	【課　題】 ・消費単価・滞在時間の少なさは体験型・コト消費型メニューの不足が一因 ・太宰府でしか体験できないものなどを商品にする必要 ・「ナイトタイムエコノミー」の受け皿が脆弱 【取組み】 ①門前町リノベーション等による ナイトエコノミーの受け皿づくり ②歴史・自然を感じられる体験メニューの提供 ③太宰府グルメの開発 ④太宰府特産品の開発・販促 【成果目標】 ・観光消費単価の増加 ・欧米豪、女性などの来訪客増加 ・体験型プログラムの利用者増 ・体験や食、夜などのサービス事業者増	・九州国立博物館の夜間鑑賞や太宰府天満宮の夜間参拝をＰＲ（2020 年度は新型コロナウイルス対応のため取止め：①）。 ・「コロナ滅観光ルート」を設定。(株)読売旅行にてモニターツアーを実施予定（2021.06 へ延期：②）。あわせて、ふるさと納税の返礼品として提供予定。 ・福岡農業高校が、各企業とコラボした梅関連商品（ポテトチップス、サイダー、ジャム、チョコレート等）を開発・継続（③・④） ・観光庁誘客多角化事業「太宰府トキタビプロジェクト」にて「太宰府万葉食」（万葉御膳・万葉弁当等）を開発（2021.03：③） ・ビジット・ジャパン事業（ＶＪ）プロモーションにて米国を対象に九州 10 都市合同での観光ＰＲを実施（2019.10-12：④）。	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・“古都”消費観光 ・梅プロジェクト（梅花の宴） ・令和御膳（古代食再現） ・万葉集ゆかりのネットワーク ・史跡指定 100 周年への対応 [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ～宝満山竈門神社・四王寺山観音様（梅の花ことば「不撓不屈」） [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	A	・「コロナ滅観光ルート」の設定・ふるさと納税返礼品提供や、福岡農業高校と各企業による梅関連商品をはじめ、「太宰府万葉食」の開発など、体験メニューや太宰府グルメの開発を着実に進めている。今後も取組みの継続が必要（②～④）。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ナイトタイムエコノミーの受け皿づくりの取組みが進んでいない（①）。	・既存の取組みを継続するとともに、包括連携協定を締結した西日本鉄道㈱や九州電力㈱等の民間事業者や関係団体と連携し、新たな体験メニューや特産品を開発する。 ・観光庁誘客多角化事業による成果品としての万葉御膳、万葉弁当等のレシピを提供する。 ・ナイトタイムエコノミーを進めている柳川市等の取組みをベンチマークし、今後の本市の取組みに活かす。	

【凡例】（2020 年度末時点の計画比）Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

観光推進基本計画（Ｐ） 2019～2023 年度 計画		実績（Ｄ） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（Ｃ・Ａ）		当面の対応（Ｐ） 2021 年度～	備　考
(3) 回遊促進戦略	【課　題】(1)に同じ ・立寄り・通過型の来訪者が多い ・観光産業が物販中心 ・宿泊施設等の集積が不十分 ・「宿泊できる場所」と認知されていない 【取組み】 ①太宰府天満宮～観世音寺～政庁跡～水城跡までの回遊ルートの整備 ②史跡地における民間投資誘導 ③市内駐車場の分散化 ④市内二次交通（サイクルシェア）の導入 ⑤モニターツアー等によるプロモーション ⑥市民参加型まち歩きイベントの開催 【成果目標】 ・立寄り個所数の増加、滞在時間の延長 ・来訪者の交通や回遊への満足度向上	・新元号「令和」の影響で、大宰府政庁跡や坂本八幡宮周辺への観光客が増加（①）。 ・客館跡の平面整備を完了（2020.05：①） ・観光庁補助金を活用し、西鉄太宰府駅・都府楼前駅、太宰府天満宮周辺他の観光案内サイン整備を実施(2019～20 年度:①)。 ・大宰府政庁跡前にバス専用駐車場の運用を開始（2019.7～：③） ・春日市、大野城市と合同でシェアサイクルの導入検討を実施中（④）。 ・「コロナ滅観光ルート」を設定。(株)読売旅行にてモニターツアーを実施予定（2021.06 へ延期：⑤）。あわせて、ふるさと納税の返礼品として提供予定。 ・九州観光促進コンソーシアム事業の一環で、海外向けオンラインツアーを開催（2021.02：⑤） ・【大宰府万葉会】毎年２月に梅花の宴の再現を実施。(2020.2、2021.2：⑥)	[1] 「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・九州万葉の歌碑めぐり [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ～宝満山竈門神社・四王寺山観音様（梅の花ことば「不撓不屈」） ・近隣修学旅行の誘致 ・マイクロツーリズム [4] 日本遺産「西の都」広域型認定 ・周辺地域との連携（「西の都」構成市町村、筑紫５市回遊） [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・県南（朝倉・うきは・八女）や熊本県北との連携 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	Ｂ	・「コロナ滅観光ルート」で客館跡や坂本八幡宮を起点とした回遊ルートを設定。今後は歴史の散歩道を含めた整理が必要（①）。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえつつ、駐車場シェアリングの事業化や、春日市・大野城市との合同でのシェアサイクル導入の検討が必要（③・④）。 ・コロナ禍でも実施できる視点を加えた新たな観光ルート、コースの設定や、修学旅行・海外からの観光客の誘致を進める必要（⑤・⑥）。	・コロナ禍でも実施できる視点を加え、歴史の散歩道（太宰府天満宮～水城跡）を含めた既存の観光ルートの整理や新たな観光ルート開発、修学旅行・海外からの観光客の誘致を実施（①・⑤・⑥）。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえつつ、関係団体と連携しながら、史跡地における民間投資誘導策や新たな駐車場整備、駐車場シェアやサイクルシェア等のシェアリングエコノミーの検討を行う（②～④）。	
(4) 基本計画実行戦略	【課　題】 ・消費単価・滞在時間の少なさは体験型・コト消費型メニューの不足が一因 ・太宰府でしか体験できないものなどを商品にする必要 ・「ナイトタイムエコノミー」の受け皿が脆弱 【取組み】 ①観光ビジネススタートアップ支援事業 ②市民おもてなし人財育成事業 ③太宰府市観光戦略推進事業体の組成 ④官民協創プラットフォームの構築 ⑤観光情報基盤の拡充 ⑥市内大学との連携 【成果目標】 ・市民・市内事業者による新たなサービス提供による所得・売上増	・太宰府市商工会が産業競争力強化法に基づく創業支援事業として実施している「だざいふ創造塾」への支援を実施（①）。 ・民間事業者との包括連携協定締結（西日本鉄道㈱：2020.9、九州電力㈱：2020.11：④） ・九州観光促進コンソーシアム※を設立（2020.7）し、太宰府の魅力を体感できる映像や新型コロナウイルス感染防止対策の情報を配信。海外向けオンラインツアーを実施（2021.2）（④・⑤）。 ・【筑紫女学園大学】筑女めざめプロジェクトの一環で、太宰府観光の研究発表（2019.12：ホテルカルティア、2020.12：だざいふ遊園地）や古都の光アンケート調査（2019.09）を実施（⑥）。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・Society5.0・ＳＤＧｓへの対応 [4] 日本遺産「西の都」広域型認定 ・周辺地域との連携（「大太宰府」観光） [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・ＤＸ推進の一環（地域ＩｏＴ実装・共同利用推進事業） ・観光コンベンション機能の強化 ・観光人財の育成	Ｃ	・新型コロナウイルスの影響により、観光関連ビジネスに特化した形での創業支援の事業手法の検討や観光サービスガイドラインの策定、太宰府の観光戦略推進を担う官民共同の事業体設立に関する協議は進んでいない（①～③）。 ・民間事業者との包括連携協定締結が進んでいるものの、観光事業提案窓口の庁内一元化や観光案内所への観光関連情報の一元化までは至っていない（④・⑤）。 ・筑女めざめプロジェクトや古都の光で筑紫女学園大学と相互に協力するなど、産学官連携の一層の推進に寄与できている（⑥）。	・コロナ禍においても実施できる観光関連ビジネスに特化した形での創業支援の事業手法、観光ガイドの窓口の一本化や観光ガイドの養成に関する検討を行う。また、太宰府観光協会のＤＭＯ化の可能性について協議を行う（①～③）。 ・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえつつ、観光事業提案窓口の庁内一元化について方向性を出す（④）。 ・民間事業者や周辺自治体と連携し、関係団体と協議しつつ、観光関連情報の一元化や先進的ＩＣＴ活用に向けた取組みを進めていく（⑤）。 ・引き続き、太宰府キャンパスネットワーク会議と連携し、学識者の専門的知見や学生の意見を市の観光施策に活用する（⑥）。	※ 総務省 地域 IoT 実装・共同利用推進事業採択プロジェクト：九州観光促進プラットフォーム「reQreate（ﾚｸﾘｴｲﾄ）」の一環。 福岡県朝倉市･うきは市･太宰府市･八女市･熊本県県北広域本部と九州電力(株)など九州の企業５社とともに設立。

【凡例】(2020 年度末時点の計画比) Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

【詳　細】

観光推進基本計画（P） 2019～2023 年度 計画		実績（D） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（C・A）		当面の対応（P） 2021 年度～	備　考
(1) 宿泊滞在促進戦略 ―太宰府で憩う―	①門前町リノベーションプロジェクト （古民家リノベーション・運営事業者募集） 2019 事業体設立 2020 2021 設計・施工、一部開業 2022 2023 事業拡大	・ホテルカルティア太宰府オープン（2019.10 古香庵、2021.3 好古亭・梅花） ・西鉄グループなどと太宰府観光の課題を整理していくべく「太宰府コンテンツ会議」を開催（2019 年度：1 回、2020 年度：0 回）。	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・安心創出策の必要性 ・2019 年度は「令和」効果で観光客が増加したが、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で激減	A	・西鉄グループの協力により、宿泊施設が増加している。	・古民家ホテルを更に開業予定。（2021 年度：1 棟予定） ・西鉄グループとの連携を密に図り、物件等の情報を共有し、今後の展開等に活かす。	
	②西鉄太宰府駅周辺の再整備 （交差点改良、駐車場・駅舎改修等） 2019 基礎調査、事業手法検討 2020 2021 計画策定、事業化準備・調整 2022 2023	・歴史的風致維持向上計画（2010 年度策定）に基づき、歴史的風致形成建造物を保存・修理（2019 年度：1 件（泉屋）、2020 年度：2 件）	[1] 「令和発祥の都」太宰府の誕生 [3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定	C	・歴史的風致形成建造物の保存修理が進んでいる。 ・新型コロナウイルス収束後を見据え、太宰府館の指定管理者制度導入を含めた具体的な再整備計画の策定が必要。	・歴史的風致維持向上計画に基づき、歴史的風致形成建造物の保存・修理を継続 ・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、西鉄太宰府駅周辺の再整備計画の策定に着手	・西鉄太宰府駅のリニューアル（2018.12） ・歴史的風致形成建造物の保存修理事業は歴史と文化の環境税で事業費の25%を充当
	③宿泊施設誘致事業 （①優遇制度ＰＲ、②ＰＰＰ事業化検討、③宿泊施設事業誘致） 2019 既存施策実施 2020 2021 誘致方策の検討、事業化 2022 2023	・ホテルカルティア太宰府オープン（2019.10 古香庵、2021.3 好古亭・梅花）	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定	C	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により宿泊施設の誘致活動を控えている。 ・新型コロナウイルス収束後を見据えた誘致方策の検討が必要。	・古民家ホテルを更に開業予定。（2021 年度：1 棟予定） ・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、誘致方策の検討に着手。	
	④宿泊推進プロモーション事業 （①「太宰府泊」の提供、②プロモーション、③専属広報部隊の構築、④口コミ戦略） 2019 既存施策実施 2020 2021 事業化の検討 2022 2023	・ビジット・ジャパン事業（ＶＪ）プロモーションにて米国を対象に九州 10 都市合同での観光ＰＲを実施（2019.10-12）。 ・九州観光促進コンソーシアム事業の一環で、海外向けオンラインツアーをホテルカルティアで開催し、海外からの誘客を図る（2021.02）	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・安心創出策の必要性 ・2019 年度は「令和」効果で観光客が増加したが、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で激減	D	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により宿泊推進プロモーション活動を控えている。 ・新型コロナウイルス収束後を見据えた事業化の検討が必要。	・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、事業化の検討に着手	
	⑤太宰府品質構築事業 （一体的なサービス、アメニティの指針構築等） 2019 制度設計準備・関係者協議 2020 2021 地域事業者との協議・制度設計 2022 2023	・西鉄グループなどと「太宰府コンテンツ会議」を開催し、制度設計に向け準備を進めている。（2019 年度：1 回、2020 年度：0 回）。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定	D	・太宰府品質構築事業の制度設計準備に着手したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により進んでいない。 ・新型コロナウイルス収束後を見据えた制度設計が必要。	・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえ、太宰府品質構築事業の制度設計に向けた協議を再開	

【凡例】（2020 年度末時点の計画比）Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

観光推進基本計画（P） 2019～2023 年度 計画		実績（D） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（C・A）		当面の対応（P） 2021 年度～	備　考
(2)コト消費促進戦略 ―太宰府を味わう―	①門前町リノベーション等による ナイトエコノミーの受け皿づくり （民間主導による事業の側面支援） 2019 事業手法検討 2020 事業化準備（事業者募集等） 2021 2022 ＰＰＰによる事業化 2023	・古民家を改装したホテルカルティア太宰府を活用して海外向けオンラインツアーの撮影を実施（2021.2）。 ・九州国立博物館の夜間鑑賞や太宰府天満宮の夜間参拝をＰＲ（2020 年度は新型コロナウイルス対応のため取止め）。 ・西鉄グループなどと太宰府観光の課題を整理していくべく「太宰府コンテンツ会議」を開催（2019 年度：1 回、2020 年度：0 回）。	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・“古都”消費観光 ・令和御膳（古代食再現） [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	C	・2019 年度は九州国立博物館や太宰府天満宮の取組みのＰＲの他、西鉄グループなどと受け皿づくりに向けた協議を開始していたが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ナイトタイムエコノミーの受け皿づくりの取組みが進んでいない。	・ナイトタイムエコノミーを進めている柳川市等の取組みをベンチマークし、今後の本市の取組みに活かす。 ・顧客の需要等の調査・研究やターゲット層の絞り込みを実施	
	②歴史・自然を感じられる体験メニューの提供 （体験メニューの充実、仕組みづくり等） 2019 メニュー案の検討 2020 商品開発、担い手探索、 2021 受け入れ先調整、代理店営業 2022 メニュー提供開始 2023	・「コロナ滅観光ルート」を設定。(株)読売旅行にてモニターツアーを実施予定（2021.06 へ延期）。あわせて、ふるさと納税の返礼品として提供予定。 ・九州観光促進コンソーシアム事業の一環で、海外向けオンラインツアーを開催（2021.02） ・観光庁誘客多角化事業「太宰府トキタビプロジェクト」にて、大宰府政庁をデジタル復元したプロジェクションマッピングや「太宰府万葉食」（万葉御膳・万葉弁当等）を開発（2021.03）	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・“古都”消費観光 ・梅プロジェクト（梅花の宴） ・令和御膳（古代食再現） ・史跡指定 100 周年への対応 [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	A	・「コロナ滅観光ルート」の設定・ふるさと納税返礼品提供や海外向けオンラインツアーの開催など体験メニューの充実を進めており、今後も取組みの継続が必要。	・既存の取組みを継続するとともに、包括連携協定を締結した西日本鉄道㈱や九州電力㈱等の民間事業者や関係団体と連携し、新たな体験メニューや特産品を開発する。 ・観光庁誘客多角化事業による成果品としての大宰府政庁プロジェクションマッピングや万葉御膳、万葉弁当等のレシピを提供・活用する。	・日本遺産 古代日本の「西の都」太宰府ＶＲアプリの制作（2016.03）
	③太宰府グルメの開発 （太宰府ならではの「食」体験の提供等） 2019 2020 2021 地元事業者との協議、開発、 2022 事業内容検討 2023	・九州国立博物館の「太宰府スイーツ散歩」イベントの一環として、(有)チョコレートショップが新作スイーツ「梅を使ったチョコレート」を制作（2020.03）。 商品化に向け福岡農業高校と連携し、「世界を目指す新作チョコレート」を共同開発（2021.1） ・観光庁誘客多角化事業「太宰府トキタビプロジェクト」にて「太宰府万葉食」（万葉御膳・万葉弁当等）を開発（2021.03）	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・梅プロジェクト（梅花の宴） ・令和御膳（古代食再現） [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	A	・「梅チョコレート」や「太宰府万葉食」の開発など、太宰府グルメの開発を着実に進めており、一部はふるさと納税の返礼品として提供できている。今後も取組みの継続が必要。	・既存の取組みを継続するとともに、包括連携協定を締結した西日本鉄道㈱様や九州電力㈱様等の民間事業者や関係団体と連携し、新たな体験メニューや特産品を開発する。 ・観光庁誘客多角化事業による成果品としての万葉御膳、万葉弁当等のレシピを提供する。	
	④太宰府特産品の開発・販促 （①商品企画・開発事業、②生産・販売スキームの構築等、③ブランディング等） 2019 2020 2021 地域事業者との協議・検討、 2022 企画検討 2023	・福岡農業高校が、各企業とコラボした梅関連商品開発の継続（カルビー(株)：ポテトチップス（梅味）、(株)高橋商店：梅ジャム他、西日本鉄道(株)：梅サイダー）や、菊芋を使用したうどんの開発を実施（2020.10～12）。 ・梅が香るまち太宰府・梅の新品種実証実験プロジェクトにより、梅の苗の無償配付や梅の新品種の福岡農業高校への植樹を実施（2020.10～）。	[1]「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・“古都”消費観光 ・梅プロジェクト（梅花の宴） ・令和御膳（古代食再現） [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・九州本来の魅力を発信 ・リモート観光・ＶＲ観光	A	・福岡農業高校の梅関連商品の開発継続により、ふるさと納税返礼品の多様化が実現できている。今後も産学官共同の取組みを継続するとともに、新たなチャネルによる新商品開発の掘り起こしも必要。	・既存の取組みを継続するとともに、包括連携協定を締結した西日本鉄道㈱や九州電力㈱等の民間事業者や関係団体と連携し、新たな体験メニューや特産品を開発する。 ・観光庁誘客多角化事業による成果品としての万葉御膳、万葉弁当等のレシピを提供する。	・福岡農業高校と各企業との梅関連商品開発のコラボ カルビー(株)：ポテトチップス(梅味) (2013 年度～) (株)高橋商店：梅ジャム他 (2014 年度～) 西日本鉄道(株)：梅サイダー (2016 年度～)

【凡例】（2020 年度末時点の計画比）Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

観光推進基本計画（P） 2019～2023 年度 計画	実績（D） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（C・A）		当面の対応（P） 2021 年度～	備　考
(3) 回遊促進戦略 ―太宰府をめぐる― ①太宰府天満宮～観世音寺～政庁跡～水城跡までの回遊ルートの整備 2019 回遊ルート案の棚卸・新規ルート検討 2020 …… 2021 観光案内、マップ作成、サイン等への反映 2022 2023 ―	・新元号「令和」の影響で、大宰府政庁跡や坂本八幡宮周辺への観光客が増加。 ・客館跡の平面整備を完了（2020.05） ・観光庁補助金を活用し、西鉄太宰府駅・都府楼前駅、太宰府天満宮周辺他の観光案内サイン整備を実施（2019～20 年度）。 ・「コロナ滅観光ルート」を設定（2020.8）。	[1] 「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・九州万葉の歌碑めぐり [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ・マイクロツーリズム [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・県南や熊本県北との連携	A	・客館跡の平面整備や駅・史跡地周辺の観光案内サインの整備は一通り完了した。 ・「コロナ滅観光ルート」で客館跡や坂本八幡宮を起点とした回遊ルートを設定。今後は歴史の散歩道（太宰府天満宮～水城跡）を含めた整理が必要。	・コロナ禍でも実施できる視点を加え、歴史の散歩道（太宰府天満宮～水城跡）を含めた既存の観光ルートの整理を実施。	
②史跡地における民間投資誘導 （史跡地内に地区計画策定、民間投資呼び込み等） 2019 2020 遊休地活用方策検討、制度検討 2021 2022 事業実施要件の整理、事業者公募等 2023	・客館跡の平面整備を完了（2020.05） ・総合戦略推進委員から史跡地における民間投資に関する事業提案を受ける（2020.12）。 ・地方提案対応方針に関する閣議決定により、史跡地管理に伴う伐採木等の資源化が可能（2020.12）。	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ・マイクロツーリズム [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・県南や熊本県北との連携	D	・事業提案はあるものの、具体的な方策検討までは至っていない。 ・新型コロナウイルスの影響や史跡地資源の有効活用に関する閣議決定を踏まえ、史跡地における民間投資誘導策を検討する必要。	・総合戦略推進委員からの事業提案や新型コロナウイルスの影響、史跡地資源の有効活用に関する閣議決定を踏まえ、史跡地における民間投資誘導策を検討。	
③市内駐車場の分散化 （駐車場整備可能性検討、二次交通整備等） 2019 基礎調査、実証事業等 2020 2021 効果検証、事業化準備 2022 駐車場整備、駐車場シェアリング 2023 事業の実施	・大宰府政庁跡前にバス専用駐車場の運用を開始（2019.4～） ・年末年始には臨時駐車場を設置し、渋滞緩和に取り組んでいる。	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・マイクロツーリズム	C	・新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえつつ、大宰府政庁跡前のバス専用駐車場の運用開始による効果の検証を実施する必要。 ・併せて、新たな駐車場整備や駐車場シェアリング事業化準備の検討が必要。	・新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえつつ、新たな駐車場整備を検討するとともに、駐車場シェアリングやカーシェアリングなどのシェアリングエコノミーの検討を行う。	
④市内二次交通（サイクルシェア）の導入 （レンタサイクルの拡充、民間への支援検討等） 2019 2020 2021 既存事業の現況把握、課題整理、事業化に向けた検討 2022 2023	・西日本鉄道(株)へのレンタサイクル業務委託を継続（貸出台数：10 台（うち電動 5 台）、2019 年度実績：1,379 台）。 ・春日市、大野城市と合同でシェアサイクルの導入検討を実施（2019.8～）。	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・マイクロツーリズム [4] 日本遺産「西の都」広域型認定 ・周辺地域との連携	C	・春日市、大野城市とシェアサイクルの導入直前までいったが、新型コロナウイルスの影響で運営会社が撤退。 ・レンタサイクル業務委託を継続するとともに、引き続きシェアサイクル導入の検討が必要	・今後も西日本鉄道(株)へのレンタサイクル業務委託を継続するとともに、３市でシェアサイクルの導入可能性を探っていく。	・西鉄太宰府駅レンタサイクルサービス：2001.11～（2010.01～ 返却場所に西鉄都府楼前駅を追加）
⑤モニターツアー等によるプロモーション （新規回遊ルートの観光商品化、モニターツアーの実施） 2019 2020 2021 モニターツアー企画、事業化に向けた検討 2022 2023	・「コロナ滅観光ルート」を設定。(株)読売旅行にてモニターツアーを実施予定（2021.06 へ延期）。 ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県内の近隣自治体を中心に修学旅行の誘致を実施（2020.9-12 月：62 校誘致）。 ・九州観光促進コンソーシアム事業の一環で海外向けオンラインツアーを開催し、コロナ後の海外からの誘客促進を図る（2021.02）	[2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ・近隣修学旅行の誘致 ・マイクロツーリズム [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・県南や熊本県北との連携	A	・引き続き、コロナ禍でも実施できる観光ルートの設定・モニターツアーの実施や、修学旅行の誘致、海外からの誘客を進める必要。 ・モニターツアーを商品化し、ふるさと納税の返礼品提供につなげる必要。	・コロナ禍でも実施できる観光ルートを設定し、モニターツアーの実施、ふるさと納税の返礼品提供につなげる。 ・引き続き、修学旅行の誘致を行う。 ・コロナ後を見据え、海外からの誘客促進策を検討する。	
⑥市民参加型まち歩きイベントの開催 （街歩き、市民マラソンイベントの開催） 2019 2020 2021 事業内容の検討、実施に向けた検討 2022 2023	【NPO 法人歩かんね太宰府】 ・まち歩きイベント企画・運営を委託。（2019 年度：4 回、2020 年度：3 回） 【大宰府万葉会】 ・万葉歌碑めぐりを実施。（2019 年度：2 回、2020 年度：3 回） ・毎年２月に梅花の宴の再現を実施。（2020.2、2021.2）	[1] 「令和発祥の都」太宰府の誕生 ・九州万葉の歌碑めぐり [2] 新型コロナウイルスへの対応 ・コロナ滅観光ルート ・マイクロツーリズム	B	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を自粛する期間もあったが、徐々に活動を再開している。 ・コロナ禍でも実施できるコース設定や新たなコンテンツづくりが必要。	・コロナ禍でも実施できるコース設定や新たなコンテンツづくりを行う。	・NPO 法人歩かんね太宰府 2007.05 発足 2009.08 NPO 法人化 ・大宰府万葉会 1997.06 設立

【凡例】（2020 年度末時点の計画比）Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

観光推進基本計画（Ｐ） 2019～2023 年度 計画	実績（Ｄ） 2019 年度・2020 年度	関係する環境の変化	評価と改善（Ｃ・Ａ）		当面の対応（Ｐ） 2021 年度～	備　考
(4) 基本計画実行戦略 ― 太宰府をつなぐ・結ぶ ― ①観光ビジネススタートアップ支援事業 （市内施設の有効活用・起業ｱｲﾃﾞｨｱｺﾝﾃｽﾄ等） 2019 事業手法検討 2020 2021 事業化準備（事業者募集等） 2022 2023 ＰＰＰによる事業化	・太宰府市商工会が産業競争力強化法に基づく創業支援事業として実施している「だざいふ創造塾」への支援を実施。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・Society5.0・SDGs への対応 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・観光人財の育成	D	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光関連ビジネスに特化した形での創業支援の事業手法の検討が進んでいない。	・太宰府市商工会が実施している「だざいふ創造塾」の取組みや、ナイトタイムエコノミーの受け皿づくりの動向を踏まえつつ、コロナ禍においても実施できる観光関連ビジネスに特化した形での創業支援の事業手法を検討。	
②市民おもてなし人財育成事業 （観光サービスガイドラインの策定等） 2019 サービスガイドラインの策定 2020 2021 研修の実施・認定ガイド事業の実施 2022 2023 継続的な人材育成事業	・観光庁の誘客多角化事業で市民おもてなし人財育成事業の実施を計画したが、不採用となった。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・多様な人材の活躍推進 [4] 日本遺産「西の都」広域型認定 ・周辺地域との連携 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・観光人財の育成	D	・新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、ガイドサービスの標準的な質を担保するための観光サービスガイドラインの策定やガイド有償化に向けた体制の構築は進んでいない。	・ガイドサービスの標準的な質の統一に向けて、観光ガイドの窓口の一本化や観光サービスガイドライン策定に関する検討を行う。	
③太宰府市観光戦略推進事業体の組成 （開発と企画運営の事業体の両輪を構築） 2019 2020 2021 2022 2023 関係者間での協議・調整、方向性の検討	・太宰府観光協会のＤＭＯ化の可能性について協会と協議を開始。	[5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・観光コンベンション機能の強化 ・観光人財の育成	D	・太宰府観光協会とＤＭＯ化に関する協議を始めたものの、太宰府の観光戦略推進を担う官民共同の事業体設立に関する協議までは至っていない。	・太宰府観光協会のＤＭＯ化の可能性について協議を行うとともに、With コロナ・After コロナの要素を考慮しつつ、太宰府の観光戦略推進を担う太宰府ブランド創造協議会の在り方についても検討していく。	
④官民協創プラットフォームの構築 （事業提案の受付窓口の一元化等） 2019 2020 2021 2022 2023 庁内での体制検討、仕組みづくり	・総合戦略推進委員から交流人口増加、史跡地の活用などの事業提案を受け、事業化に向けた検討を実施（2020.12）。 ・民間事業者と包括連携協定を締結。 （西日本鉄道㈱：2020.9、九州電力㈱：2020.11）	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・多様な人材の活躍推進 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・ＤＸ推進の一環 ・観光コンベンション機能の強化	C	・総合戦略推進委員からの事業提案を検討するとともに、民間事業者との包括連携協定締結が進んでいるものの、観光事業提案窓口の庁内一元化までは至っていない。	・新型コロナウイルス感染拡大の動向を踏まえつつ、観光事業提案窓口の庁内一元化について方向性を出す。 ・協定締結事業者と連携した事業展開を検討する。	
⑤観光情報基盤の拡充 （観光案内所機能の拡充、先進的ＩＣＴの活用） 2019 2020 2021 2022 2023 導入可能性検討、実証事業等の計画策定	・九州観光促進コンソーシアム※を設立（2020.7）し、太宰府の魅力を体感できる映像や新型コロナウイルス感染防止対策の情報を配信。海外向けオンラインツアーを実施（2021.2）。 ・太宰府市商工会からプレミアム率30%のキャッシュレス型プレミアム付商品券「だざいふペイ」を販売（2020.10）。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・Society5.0・SDGs への対応 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・ＤＸ推進の一環 ・観光コンベンション機能の強化	B	・民間事業者や周辺自治体との先進的ＩＣＴ活用に向けた取組みは新型コロナウイルスの動向を踏まえた上で着手できているものの、観光案内所への観光関連情報の一元化は進んでいない。	・観光関連情報の一元化は、ＤＭＯ形成を含めて太宰府観光協会等の関係団体と協議しながら進めていく。 ・先進的ＩＣＴ活用に向けた取組みは、引き続き、民間事業者や周辺自治体と連携し、他市の調査、視察等を行いつつ検討していく。	※ 総務省 地域 IoT 実装・共同利用推進事業採択プロジェクト：九州観光促進プラットフォーム「reQreate（ﾚｸﾘｴｲﾄ）」の一環。 福岡県朝倉市･うきは市･太宰府市･八女市･熊本県県北広域本部と九州電力(株)など九州の企業５社とともに設立。
⑥市内大学との連携 （研究発表等での産学官連携の一層の推進） 2019 2020 2021 2022 2023 太宰府キャンパスネットワーク会議との協議・体制構築	・【筑紫女学園大学】 筑女めざめプロジェクトの一環で、太宰府観光の研究発表（2019.12：ホテルカルティア、2020.12：だざいふ遊園地）や古都の光アンケート調査（2019.09）を実施。 ・【日本経済大学】古都の光にボランティアで多数参加。	[3] 第２期「まち･ひと･しごと創生総合戦略」策定 ・多様な人材の活躍推進 ・Society5.0・SDGs への対応 [5] 九州観光促進コンソーシアムの設立 ・観光人財の育成	A	・筑女めざめプロジェクトや古都の光で筑紫女学園大学と相互に協力しており、また、日本経済大学においては古都の光にボランティアで参加いただいている。産学官連携の一層の推進に寄与できている。	・引き続き、太宰府キャンパスネットワーク会議と連携し、学識者の専門的知見や学生の意見を市の観光施策に活用する。	・太宰府キャンパスネットワーク会議：1998 年～ （市内５大学（九州情報大学、筑紫女学園大学、日本経済大学、福岡こども短期大学、福岡女子短期大学）と組織）

【凡例】（2020 年度末時点の計画比）Ｓ：当初の計画以上に大幅に進捗（120%～）、Ａ：順調に進捗（100～120%）、Ｂ：概ね順調に進捗（80～100%）、Ｃ：進捗がやや遅れている（60～80%）、Ｄ：進捗が遅れている（～60%）

～おわりに～

古都・太宰府から始まる九州観光・道の駅　～九州の道は太宰府に通ず～

太宰府市観光推進基本計画策定委員会
会長　大江英夫

ご承知のように太宰府市、九州地域の歴史文化は、「遠の朝廷・西の都」とよばれた「大宰府」によって始まりました。

約 1300 年前に、本地域に置かれた「大宰府」は、古代日本が対外政策を行い、また西海道・九州、筑前・筑後・豊前・豊後・肥前・肥後・薩摩・大隅・日向の九国と三島（壱岐・対馬・多禰＝種子島・屋久島など）を管轄する古代の官司であり、これが設置されたことにより太宰府地域は九州地域における政治経済･外交防衛の重要拠点となり、多くの人の往来や文物・情報も行き交い、太宰府は交通・交流の要衝でもありました。「大宰府」は九州地域の交通路の中核として、古代官道や駅による駅伝・伝馬制度の結節点であり、早馬による伝令を九州各地の国府へ送りました。

ちなみに駅は驛の略字で「馬をつなぐ」の意味があり、文字通り馬と馬をつないで伝達する駅伝でありました。

『延喜式』によれば、古代の日本では全国で 400 か所の駅のうち、九州、大宰府管内には、約 100 か所の駅があったようで、約 4 分の 1 の駅が九州にあったことは注目されます。

古代の「大宰府」を拠点とする九州各地（国府）を結ぶ駅路のつながり、及び江戸時代の街道と宿場町、現在の高速道路網や SA・PA、「道の駅」、鉄道路線や駅など交通網との考察、「全ての道はローマに通ず」で知られるローマ帝国や中国、隋や唐など中央集権国家の文明と交通の発達との比較など九州観光振興のヒントを太宰府の歴史文化から調査研究し紐解いていくことも重要です。

また、現在、国内の地域観光、「マイクロツーリズム」の主流として、全国各地に設置された「道の駅」めぐりがありますが、「道の駅」のルーツが太宰府の歴史・文化にもあることは大変興味深く、今後の「大太宰府観光」の広域展開の可能性が「道の駅」にはあると考えます。

今後この観光推進基本計画が観光地かつ令和発祥の古都・太宰府を拠点にした「大太宰府観光」の指針として九州地域の観光産業の振興に寄与するとともに、持続可能な未来への観光の道標として、これからの百年、千年、未来永劫と続く「まちづくりや人づくり」、地域の発展に貢献するものとして祈念します。

（参考）大江英夫「観光的視点から見た「道の駅」の現状と課題－九州・沖縄の事例を中心に―」九州産業大学「商経論叢」第 56 巻 2 号、2015 年